

知床エコツーリズムガイドライン

平成 19 年 3 月
知床エコツーリズム推進協議会

知床エコツーリズム推進協議会では、知床に残された貴重な自然を守ると共に、参加者の皆様にご満足いただけるような世界遺産「知床」に相応しいエコツアーの実施を奨励するため、この度、ガイドツアーの実施の際に守るべき地域の自主ルール（ガイドライン）を定めることと致しました。皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

() 本ガイドラインは、知床で活動する自然ガイド、自然ガイドを雇用する事業者、自然ガイドが実施するツアー・プログラムに対するガイドラインです。

< 知床を訪れる旅行者の皆様へ >

ガイドツアーに参加されないお客様も含めて、遊歩道散策の際などには、自然ガイドの指示に従ってください。また、お客様自身も貴重な自然に接する際のルール・マナーの遵守をお願いいたします。皆様一人一人の心掛けが、知床の自然を守ることにつながります。

< 旅行会社・バス会社等の皆様へ >

本ガイドラインは知床で活動する自然ガイドが守るべきガイドラインとして定めたものですが、旅行商品の企画の際や、現地ガイド手配の際にご配慮いただければ幸いです。また、添乗員・バスガイド等乗務員の皆様には、知床における地域の取組みをご理解の上、ご協力をよろしくお願いいたします。

私たちは、自然ガイドの引率に関わらず知床で実施されるすべてのツアー・プログラムが自然環境に十分に配慮したものとなることを願っております。本ガイドラインにおけるガイド一人当たりの引率人数に関しましては、現状も鑑み、将来的な達成目標とお考えください。

ガイドライン策定の目的

自然ガイドやガイド事業者が守るべき共通のルールを定め、地域で共有することによって、ガイドの質を維持・向上すると共に、安全管理と自然環境の保全が図られたガイドツアーの実施を奨励し、それを一般利用者へもアピールしていくこととする。

知床で活動するガイドが本ガイドラインを遵守することで、知床の自然環境の保全が図られるとともに、ツアー参加者の高い満足度と安心感を保証し、知床で実施されるガイドツアーのステータスが高まることが期待される。

知床エコツーリズム推進協議会事務局
<http://www.shiretoko.or.jp/04ecotourism.htm>

1. エコツアーガイドに対するガイドライン

将来目標

知床で活動するエコツアーガイドは、来訪者に対して知床の素晴らしさや、知床でのルールを伝えていく役割を果たす。また、ガイド活動を通して、知床の地域社会と自然環境の保全に貢献していく。

現状と課題

2005年7月の世界自然遺産登録以後、知床では自然ガイドの需要が大幅に増加し、活動するガイドの数が増加した。しかし、ガイドとして有償で活動するための資格や認証制度、ガイドが遵守すべきルールなどが整備されておらず、ガイドの質の維持が課題となっている。また、ガイドの役割として、一般利用者への注意喚起も必要である。

守るべきルール

1. ガイドは、自然環境への負荷に配慮したツアー運営を行い、またツアー参加者及び一般利用者が自然環境に対して悪影響を及ぼさないよう指導する。
2. ガイド活動により一般利用者の利用の妨げにならないよう配慮する。
3. 地域の他のガイドと情報交換を行うために、知床ガイド協議会に加入する。
4. ガイドの技量を高めるために、各種ガイド技術講習会及び研修会に積極的に参加する。
5. 緊急時の安全確保のために、救命救急の講習を定期的に受講する。
6. 知床にはヒグマが高密度に生息しており、いつでもどこにおいても出会う可能性がある。ヒグマと遭遇した際に事故を避けるために、必要な技術と知識を身につける。
7. ガイドは地域社会について理解を深め貢献するためにも、知床（斜里・羅臼両町）に居住することが望ましい。
8. 知床での活動が1年目のガイドは、経験豊富なガイドに十分な指導・教育を受ける。
9. ガイドは関連法令（自然公園法・鳥獣保護法等）を遵守し、ツアー参加者及び一般利用者にも遵守を指導する。
10. ツアー参加者に対して知床が世界的に貴重な生態系を残す地域であることの説明を行い、正しい知識を提供する。
11. ツアー参加者に対して、自然環境への影響の軽減と保全への理解を深めるための説明を行う。
12. ツアー参加者に対して、知床の地域文化・歴史などへの理解を深めるための説明を行う。
13. ツアー参加者や一般利用者が野生動物に対しての餌付けやゴミの投げ捨てをしないように指導する。
14. ツアー参加者や一般利用者が遊歩道や登山道等へペットを持ち込まないように指導する。
15. ツアー参加者の体力や能力に配慮した行程でツアーを実施する。
16. 大音量を発生させる拡声器等は使用しない。

2. エコツアー事業者に対するガイドライン

将来目標

知床で活動するエコツアー事業者は、単にガイド業を営むだけでなく、ツアー参加者の安全確保に配慮しつつ質の高いプログラムを提供するとともに、知床の地域社会と自然環境の保全に貢献する。

現状と課題

質の高いエコツアーを提供するためには、各事業者がガイドの質を維持できる雇用体制を整備することが必要である。また、情報交換や所属ガイドのレベルアップのため、各事

業者間のいっそうの連携が求められている。安全管理に関しては、体制が各事業者によって異なる状況にあり、一定の基準を設ける必要がある。知床らしいエコツアーを展開するためには、事業者の姿勢と取り組みが重要である。

守るべきルール

1. 事業者は、所属するガイドに「エコツアーガイドに対するガイドライン」を遵守させる。
2. 事故防止と発生時の対応のための安全管理マニュアルを作成し、所属するガイドに遵守させる。
3. 緊急時における組織内の連絡網を整備する。
4. 事故発生時の責任対応のために、1事故について3億円以上（アクティビティの性質により3億円以上の契約が不可能な場合はその最高額）の賠償責任保険に加入する。
5. ツアーの広告・募集時には、参加者にとって必要かつ正しい情報の提供を行う。
6. 所属するガイドの半数以上は知床でのガイド活動歴が2年以上であることが望ましい。

3. 各アクティビティに対するガイドライン

3-1 知床五湖でのガイドプログラム

将来目標

常態化している知床五湖の混雑状況を改善し、開拓などの人の営みと、知床の自然の豊かさを利用者に伝える少人数のエコツアーを幅広い層を対象に実現する。

現状と課題

知床において最も集客力の高い観光地の一つである知床五湖は、時期によって遊歩道内の混雑が常態化しており、世界自然遺産登録以後はよりいっそうその傾向が顕著になってきている。知床五湖遊歩道ではすでに数年前からガイドウォークの利用が多く見受けられるが、ガイド付きツアーによる渋滞や、一般利用者の通行の妨げとなる可能性が指摘されており、マスツーリズムとの共存が課題となっている。

また、知床五湖はヒグマの出没が多発する地域であり、安全管理に配慮したエコツアーの実施が求められている。

守るべきルール

1. 遊歩道に入る前に、ツアー参加者に対してヒグマとの遭遇を避けるために配慮する点や出没時の対処法をレクチャーする。
2. 遊歩道内は見通しが悪いので、突発的なヒグマの出没などに十分注意する。
3. ヒグマやハチなどの野生動物の誘引、軋轢を避けるため、ツアー参加者及び一般利用者に対して、飲食物を持ち込まないよう指導する。
4. これ以上の遊歩道の拡張をもたらさないために、ツアー参加者及び一般利用者が遊歩道を外れて歩かないよう指導する。
5. 当地の遊歩道は見通しが悪く、参加者の安全管理のためにガイド一人が一度に案内する参加者の人数は概ね10人までとする。
6. 遊歩道の幅いっぱいにはろがり、他の利用者の通行の妨げになるような状態を避ける。
7. 同時間にツアーを実施する他のガイドと連携し、スムーズな遊歩道利用が行えるよう努力する。
8. 動植物を採取しているツアー参加者及び一般利用者を発見した際は、止めるよう指導する。

3-2 フレペの滝でのガイドプログラム

将来目標

草地に集うシカや、開拓跡地と100平方メートル運動地等を活かし、開拓などの人の営みと、知床の自然の豊かさを利用者に伝える少人数のエコツアーを実現する。特にフレペの滝遊歩道はコースの起伏が少なく所要時間も短いことを活かし、体力が無い方を含めた幅広い層に知床の素晴らしさを伝えていく。

現状と課題

知床五湖の慢性的な混雑状況により、近年フレペの滝遊歩道の利用者数が増加傾向にあり、今後は遊歩道のスムーズな利用に配慮する必要がある。また、季節によってはヒグマの出没が多発するため、安全管理に配慮したエコツアーの実施が求められている。

守るべきルール

1. 遊歩道に入る前に、ツアー参加者に対してヒグマとの遭遇を避けるために配慮する点や出没時の対処法をレクチャーする。
2. ヒグマやハチなどの野生動物の誘引、軋轢を避けるため、ツアー参加者及び一般利用者に対して、飲食物を持ち込まないよう指導する。
3. これ以上の遊歩道の拡張をもたらさないために、ツアー参加者及び一般利用者が遊歩道を外れて歩かないよう指導する。
4. ガイド一人が一度に案内する参加者の人数は概ね15人までとする。
5. 遊歩道の幅いっぱいにはろがり、他の利用者の通行の妨げになるような状態を避ける。
6. 同時にツアーを実施する他のガイドと連携し、スムーズな遊歩道利用が行えるよう努力する。
7. 動植物を採取しているツアー参加者及び一般利用者を発見した際は、止めるよう指導する。
8. 展望台～フレペの滝上部の柵の外に一般利用者が出ている場合は、すぐ中に戻るよう指導する。

3-3 羅臼湖でのガイドプログラム

将来目標

羅臼湖への遊歩道は、国立公園の特別保護地区などを含め、高山帯の湿原植生など特異かつ脆弱な自然環境にある。このような場所でのエコツアーは知床の核心地域の魅力を十分に味わうことができる一方で、自然環境へのよりいっそうの配慮が求められる。そこで羅臼湖歩道では、特に自然に対して関心が高く体力がある層を対象にして、少人数のエコツアーを実現する。

現状と課題

近年、遊歩道を外れて歩く利用者の踏みつけによる歩道の拡大と植生破壊が顕著に現れており、自然環境への負荷に対する一層の配慮が求められている。また、利用者による歩道入り口付近の路上駐車も交通安全上問題となっている。

守るべきルール

1. 羅臼湖を利用する際は、道路に車両を駐車せず、送迎を行うよう配慮する。
2. 歩道に入る前に、ツアー参加者に対してヒグマとの遭遇を避けるために配慮する点や出没時の対処法をレクチャーする。

3. 飲食物を持ち込む場合は、ヒグマ等の誘引の原因とならないように取り扱いに十分注意し、ツアー参加者にも徹底させる。
4. これ以上の歩道の拡張をもたらさないために、一般利用者も含めて、長靴等の泥濘に対応できる靴の着用をできる限り勧め、歩道を外れて歩くことがないように指導する。
5. 歩道の幅いっぱいにはひろがり、他の利用者の通行の妨げになるような状態を避ける。
6. ガイド一人が一度に案内する参加者の人数は概ね 10 人までとする。
7. 同時にツアーを実施する他のガイドと連携し、スムーズな歩道利用が行えるよう努力する。
8. 動植物を採取しているツアー参加者及び一般利用者を発見した際は、止めるよう指導する。
9. 参加者には事前に高山帯の厳しい環境であることを伝え、防寒具・雨具などの携行を義務付ける。

3-4 流氷上でのガイドプログラム

将来目標

冬季に接岸する流氷は、知床の海岸線の地形を形作り、また知床の生態系の多様性を支える重要な役割を果たしており、世界遺産登録の理由の一つともなっている。また知床は、この土地ならではの自然資源を活用した流氷上でのガイドプログラムを他地域に先駆けて確立した地域であり、先進地として他地域のモデルとならなければならない。安全管理を徹底し、景観に配慮した少人数のエコツアーを幅広い層を対象に実現し、知床の自然の奥深さ、雄大さを伝える。

現状と課題

近年の需要増によって、流氷上でのガイドプログラムを実施するガイド・ガイド事業者が増加する傾向にあり、より一層の安全管理が求められている。また、ツアー実施数の増加に伴い、ツアー参加者でない一般利用者が誤って事故を起こさないよう、一般利用者に対する普及活動も必要である。

守るべきルール（知床ガイド協議会作成の自主ルールより抜粋・一部修正）

1. ガイド一人が一度に案内する参加者の人数は概ね 10 人までとする。
2. ツアー参加者全員にドライスーツ、防水グローブ、帽子を着用させる。
3. 事故を防ぐために装備の保守点検を行う。
4. ドライスーツを持たない一般観光客が流氷に乗らないために、流氷上にエントリーする際は、必ず他の旅行者に対して注意を促す看板を立て、その場所から入り、その場所から退出する。
5. 事故を防ぐために、茶志骨の先端から、プユニ岬の先端を結んだ範囲内（陸上から目視できる地点）で行う。
6. 夜間はツアーを行わない。
7. ツアー中のガイドはレスキュー機材（救急用具を含む）を携帯する。
8. ツアー中、気象条件等により危険が予測された場合は、速やかに陸に戻り、その際付近のガイドにも危険を知らせる。
9. 流氷に乗っている一般人を発見した場合は、速やかに状況確認をし、必要ある時は陸地までエスコートする。また、海に落ちた人を発見した場合は、速やかに警察への連絡と、可能な限りのレスキューを行う。
10. 年に 1 度、レスキューの訓練を実施する。

3-5 夜間における動物観察プログラム

将来目標

静寂が守られた夜の国立公園内において、幅広い層を対象に少人数のエコツアーを実現し、昼とは違った夜間の野生動物の生態を伝える。

現状と課題

夜間の動物観察プログラムの需要の増加により、夜間の国立公園内において多くの車両がライトを使用しながら走行している状況にあり、静かな夜の雰囲気を楽しむことができない状況になりつつある。また、野生動物への影響も無視できない。今後は夜の静けさと闇を満喫することのできる環境作りと野生動物への配慮が必要である。

守るべきルール

- 1．野生動物に影響を与えるような強力なライトや拡声器の使用はしない。
- 2．野生動物の種類によっては、接近した状態ではライトで照らすことはしない。
- 3．各車両がお互いに近接しないよう配慮する。
- 4．車外に出る場合はヒグマとの遭遇の可能性などを考慮し、安全管理に十分配慮する。

この他、登山・カムイワッカ湯の滝等でのガイドツアーに関しても今後必要性に応じてガイドラインの検討・策定を行う予定です。